

第1学年A組 音楽科学習指導案

授業者 大山 光子
研究協力者 吉澤 恭子

1 題材名 ききあって あわせて ～よびかけっこで うたおう～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは、これまでに自分が知っている曲を歌ったり、歌に合わせて振り付けをしたりする活動を通して、リズムを感じて歌うことや歌に合わせて体を動かすことの楽しさを味わってきている。入学してから覚えた「校歌」を伸び伸びと歌うなど、みんなで取り組む活動を楽しんでいる。さらに、「おながくにあわせて」では、友だちと一緒にわらべうたの手遊びをしたり、歌の中の生き物や動物になりきって動きをつくったりする姿も見られた。歌い方や声の出し方にも関心を示し、大きい声を出すだけではいけないことに気付き、いい声を見つけようとしている様子も見られる。好きな歌を自分なりに歌うことはできるが、聴き合ってみるまで合わせて歌うことに関しては、経験が少ない。

(2) 題材について

本題材では、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うという資質・能力を高めることを目指す。交互唱の曲を扱うことで、呼びかけとこたえを聴き取り、掛け合いながら歌う面白さや楽しさを感じ取り、繰り返し歌うことで声を合わせて歌うことができるようにしたい。

本題材で取り上げる交互唱とは、二つのグループが歌のフレーズごとに交代して、交互に歌う形である。追いかける楽しさやまねる楽しさを味わうことができる。また、交互に歌うためには、お互いの声に耳を傾け、集中して歌うことが必要となる。交互唱が完成するには、自分の役割を自覚し、相手とかかわり合う気持ちも大切になってくる。題材を通して、歌う楽しさや声が合ったときの心地よさを味わわせたい。呼びかけとこたえを活かしながら、お互いの声を聴き合い、声を合わせて歌うことを楽しむ子どもの姿を期待して、本題材を設定した。《こぶたぬきつねこ》は、歌詞がしりとりになっていて、楽しく親しみやすい曲である。《アイアイ》は、同じ言葉を繰り返し呼びかけ合いながら、拍の流れののって歌える曲である。《森のくまさん》は、歌詞のストーリー性を生かしながら、楽しく歌える曲である。曲は「動物シリーズ」とし、子どもたちが「次はどんな曲かな。」と期待感をもてるように選曲をした。3曲ともなじみのある曲で、お互いの声をよく聴いて歌うことに適している。

(3) 指導について

本題材で育みたい資質・能力は「互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う」力である。そのため、歌い出しに気を付けて、歌による呼びかけ合いの楽しさを味わいながら、友だちと一緒に声を合わせる方法について考えるという「見方・考え方」を働かせた学習活動を、題材を通して行う。

子どもたちが、呼びかけ合う楽しさを味わうことができるように、いろいろな歌い方を試す活動の中で、声の出し方（発声）や表情など歌うときの基本を身に付けながら、一斉指導を中心に行う。いろいろな歌い方としては、先に歌う人と後に歌う人を決めて歌ったり、順番を入れ替えて歌ったり、先に歌う方を一人にしたり、全員にしたりするなど、歌い方の形態を変えることで交互唱の楽しさに浸らせたい。

題材の導入では、《こぶたぬきつねこ》を鑑賞することで、これまでの曲との違いに気付き、呼びかけとこたえの仕組みについて知ることができるようにしたい。歌詞がしりとりになっている短いフレーズの曲から取り組むことで、身振りなどを入れながら交互唱に親しむことができるようにする。その後、呼びかけ合いの後に一緒に歌う部分のある曲《アイアイ》に取り組むことで、合わせて歌うことをより一層意識できるようにする。題材の後半で扱う《森のくまさん》は、弱拍で始まる曲であるため、特に歌の出だしに気を付けてタイミングよく合わせて歌えるように、いろいろな歌い方を体験することができるようにする。声を合わせて歌うにはどんなことが大切なのか、1年生なりに考えることができるように、気付いたことを出し合う場面を設定する。交互に歌う場面においては、お互いの気持ちが大きく影響してくると思われる。楽しさのあまり大きな声や乱暴な声で歌ってしまったり、競争して声を出したりすることがないように、歌声の表情にも配慮していきたい。交互唱をすることで、みんなで一つの歌をつくるという満足感が得られるように、互いに聴き合って、声を合わせる喜びを十分に味わわせたい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 拍の流れや曲の気分を感じ取って、お互いの声を聴き合い、声を合わせて楽しく歌うことができる。 (A-13)

(2) 呼びかけとこたえを生かしながら、曲に合った歌い方を試して、声を合わせて歌うよさに気付くことができる。 (A-1・[共通事項]1)

(3) 交互唱の面白さを感じ取りながら、友だちと一緒に表現したり、鑑賞の学習に進んで取り組もうとしたりする。 (ア・エ)

4 題材の構想（総時数 5 時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

おんがくにあわせて(1年)

◎本題材で育む主な資質・能力
互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。
(A・13)

○本題材の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
歌い出しに気を付けて、歌による呼びかけ合いの楽しさを味わいながら、友だちと一緒に声を合わせる方法について考える。

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	<p>(1) 今までの歌と比べながら《こぶたぬきつねこ》を聴き、交互唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「さんぼ」の曲と違うね。 まねっこして歌って。いるよ。 <p>学習課題 こえをあわせ よびかけっこで うたおう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけとこたえに気付くことができるように、今までの歌との違いを出し合う場面を設ける。 声の出し方や表情に気を付けて歌えるように、教師→児童全員、教師→大グループで歌うことから始める。 	<ul style="list-style-type: none"> 交互唱の楽しさを感じ取りながら、聴いている。〈エ・[共通事項]1〉 友だちと一緒に歌う学習に取り組んでいる。〈ア〉
2	<p>(2) いろいろな歌い方を試しながら、《アイアイ》を交互唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> よびかけっこしてるね。 よびかけっこの後は一緒に歌っているよ。 最後をぴったり合わせるには、どうしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 拍の流れに気を付けて歌うことができるように、打楽器でリズム打ちを入れて支援する。 よびかけっこの楽しさを味わえるように、いろいろな歌い方を試す活動を取り入れる。(大グループ→大グループ、小グループ→全員、一人→大グループなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取って、どのように歌いたいのか、思いをもって歌っている。〈A-1〉
3	<p>(3) いろいろな歌い方を試しながら、《森のくまさん》を交互唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 始まりを合わせるのが難しいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 弱拍で始まる曲もタイミングよく歌えるように、これまでの曲と歌い出しが異なることを取り上げ、繰り返し歌うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけ合いの楽しさを味わいながら、友だちと合わせて歌っている。〈A-13〉
4 本時	<p>(4) よびかけっこのパターンを変えながら《森のくまさん》を交互唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで分かれてみようか。 一人とみんなでやってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴き合う大切さを実感できるように、呼びかけ役とこたえる役を両方体験する場を設ける。 声を合わせて歌うコツが確かめられるように、歌う役と聴く役に分かれて歌ったり聴いたりする場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの声をよく聴き合い、歌の出だしに気を付けながら声を合わせて歌っている。〈A-1・13〉
5	<p>(5) 《森のくまさん》をグループごとに発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1番と2番で歌い方を変えてみるよ。 よびかけっこって楽しいね。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼びかけ合いがタイミングよくできているグループを紹介することで、他の交互唱の曲を歌ったり、器楽での演奏にも活かしたりしようとする意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの声を聴き合い、声を合わせて楽しく歌っている。〈A-13・ア〉

おとでよびかけっこ (1年)
歌でよびかけっこ (2年)

5 本時の実際（4 / 5）

(1) ねらい 互いの歌声を聴くことや歌の出だし部分に気を付けながら、声を合わせて歌うことができる。 (A-13)

(2) 展開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
5分	<p>① よびかけ遊びや発声練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上手につなげることができたね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名前の呼びかけ遊び（「〇〇さーん」「はあい」）や発声をすることで、全員が安心して声を出すことができる雰囲気作りをする。 ・ みんなの表情が見合えるように、サークル状になるよう促す。
5分	<p>② 前時までの学習を振り返り、学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声を合わせて歌うコツを確認できるように、前時までの活動を想起できる掲示物を準備する。
30分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習課題 こえをあわせ よびかけっこで もりのくまさんをうたおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森のくまさんもよびかけっこの歌だったね。 ③ よびかけっこのパターンを変えながら《森のくまさん》を歌う。 ・ よびかけっこだから、お話しするように歌えるといいな。 ・ 目と目で合図するよ。 ・ 一緒に息をすると合うね。 ・ 〇〇さんが先に歌うと歌いやすいな。 ・ よびかける人の声をよく聴かないと合わないよ。 ・ 向かい合って歌うとよく合わせられるよ。 ・ ぼくは呼びかける方を、一人でやってみたいな。 ・ こたえる方を歌いたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弱拍で始まる曲の拍感が捉えられるように、前奏の後の息をするタイミングを、繰り返し歌いながら確かめる。 ・ 自信をもって声が出せるように、よびかけっこを教師→子どもたちから始める。代表の子ども→大グループなど、いろいろな組み合わせでよびかけっこを試したり、子どもたちからのアイディアも取り入れたりする。 ・ 歌の出だしが合っているかや交互唱のよびかけっこがタイミングよくできているかを確かめることができるように、歌う役と聴く役に分かれて、歌ったり聴いたりする場面を設ける。 ・ 拍の流れにのって歌うことができるように、流れにのれなかったり、歌い出しがうまくいかない場合には、前奏を入れたり拍打ちをしたりして支援する。 ・ 交互唱がタイミングよくできているグループを取り上げ、みんなで聴き合うことでよさを見つけ、声を合わせて歌うコツにつなげていけるようにする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>互いの声をよく聴き合い、歌の出だしに気を付けながら、声を合わせて歌っている。 (A-1・13) (歌っている表情や様子・歌声・発言)</p> </div>
5分	<p>④ 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼びかけっこで歌うと楽しいな。 ・ 声を合わせるには、よく聴くことが大事だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が意識的に活動をふり返ることができるように、ネームプレートを活用する。 ・ 次時の活動では、グループで試してみて気に入った歌い方を選んで、発表会を開くことを伝え、意欲付けを図る。